

令和6年度の教育活動等に対する自己評価・学校関係者評価報告書

令和7年2月17日実施

学校法人鈴木学園 しらゆり幼稚園 園長

山本 環 ・ 安武 裕子

学校法人鈴木学園 しらゆり幼稚園 学校関係者評価委員長

大村 知美

学校法人鈴木学園 しらゆり幼稚園 学校関係者評価委員

村上 知子 ・ 高林 希会 ・ 坂田 尚之

教育理念	真に自由に個性を伸ばしながら正しい人間形成を目指すには、優れた教育者との出会いと適切な環境が必要である。
	幼稚園は、子ども達が初めて社会生活を体験する場であると同時に、生涯を通じた財産である様々な能力の礎を築く大切な時期である。
	しらゆり幼稚園は健康と情操教育を重視した教育に努め、仲間と協力しながら自然体験や社会経験を重ね、五感を使って感じ取り、考え、主体的に行動することを通して、個性と能力を伸ばす教育をおこなう。
教育方針	孝友三心 一、親を思う心 一、友を愛する心 一、自分をみつめる心
教育目標	一、体の丈夫な子 一、心の豊かな子 一、よく考える子
	自然に恵まれた教育環境のもと、『孝友三心』を建学の精神とするとともに、『健康は一生の宝』という言葉を念頭に置き、体の丈夫な子、心の豊かな子、よく考える子を育てることを園の目標として教育に努める。
本年度の重点目標	仲間や自分を大切に思い、互いを認め合い育ちあえる教育 元気にあいさつを交わし、みんなが笑顔な幼稚園 ◎互いの個性を尊重し、自分らしさを発揮して主体的に活動する ◎ねらい・内容・発達を捉えた保育を実施し、気づきや育ちを記録し情報発信する ◎異年齢とのかかわりの中で憧れの気持ちや思いやりの心を育てていく

学校法人鈴木学園 しらゆり幼稚園

評価基準	十分に理解(取り組み)できた・目標を達成している	9・10	* 左表の評価基準を参考に10段階評価する
	ほぼ理解(取り組み)できている・積極的に進められている	6～8	* 項目に対する取り組み内容を記入する
	理解(取り組み)できてはいるが、不十分な点(課題)がある	3～5	* 取り組めなかった項目については、今後の改善計画を記入する
	理解できていない・取り組めていない・未実施	1・2	

* 評価点の下段()は昨年度の点数

評価項目	評価内容	評価点	幼稚園としての取り組み・改善策
教育理念 指導計画	園の教育方針を理解し、園児のために意欲的に教育・保育活動に取り組めた	8.0 (7.8)	保育室に教育方針や目標を掲示してあることで全教職員が意識して取り組むことができた。さらに子どもたちにも活動のねらいを伝えることで、以前よりも意欲的に取り組む姿が見られた。 【ねらい】を意識して活動し、振り返りを行い、次週の週案につなげることができた。
	保育の目標を達成するために【ねらい】があり、【ねらい】をより具体的ににしたものが指導計画であり、保育の内容であることを理解している	8.0 (8.3)	
	幼児の興味や関心、幼児の実態、予想されるこれからの生活などを考慮して作成している	7.7 (8.0)	
保育について	楽しく保育に取り組むことができている	8.6 (8.2)	保育者が子どもと一緒に楽しく保育に取り組むことで子どもの興味関心に気づき、より遊びが発展するように環境構成を考える力が付いてきている。今後も園内研修で準備や支援について学ぶ体制を整えていく。 互いの保育を見合う取り組みにより、自分の保育の良い点、足りない点に気づくことができた。
	幼児が主体的に関わりたくなるように、活動の展開に応じて環境の再構成をしている活動に必要な遊具や用具、素材などを質・数量に配慮して用意している	7.1 (7.3)	
	自分の保育と計画の評価・反省をおこない、次の保育と計画に生かせるようにしている	7.0 (7.1)	
行事について	行事の種類や実施回数は適切である	7.7 (7.1)	子どもたちと行事のねらいを共有して取り組むことで、過程も楽しむことができた。昨年度から行事の反省に写真を多く残したことで、新人の先生も見通しを立てて取り組むことができた。 伝統として守る点、時代や子どもの様子で改善する点を検討し、実施することができた。引き続き行事のあり方を検討していく。
	行事のねらいを理解し、計画や実施に十分生かしている	7.7 (7.5)	
	行事の計画・実施・評価・改善の体制をとっている	7.7 (7.5)	
教職員同士の 協力・連携	職員相互がそれぞれ全体的に立場を理解し、協力や助言を惜しむことなく幼稚園運営にかかわっている	7.7 (7.6)	学年打合せへ全員参加が難しいが、毎日10分でも打ち合わせできるように改善したい。行事や戸外あそびに担任以外の職員配置ができ、より安全に楽しく取り組むことができた。サブリーダー制の導入により、若手職員の意見を取り入れやすくなった。 各自のスキルが生かせる仕事分担を考慮し、不得手な分野の負担を減らすように検討する。
	教育・保育・運営の課題について園全体や学年で話し合いを行っている 打ち合わせ回数、時間、内容は適切である	7.2 (6.3)	
	職務内容が明確で、協働できる体制になっている 職員の配置、係や仕事の分担・割り当ては適切である	7.2 (7.2)	
健康と安全への 配慮	複数名による登園確認を行い、欠席・遅刻連絡のない場合は保護者に確認をしている 園外・戸外活動の前には複数名で園児の人数チェックを行っている	9.1 (9.0)	登降園管理にQRコードを導入するなど、登降園チェックや安全確認などを都度見直すことによりミスが減っている。マニュアル等を園内研修で読み合わせることで、危機管理への意識が高まっている。非常勤職員も研修に参加できる仕組みを検討したい。職員間でアプリを使用してヒヤリハット事例を共有し、事故が発生しないよう対策できた。点検は必ず複数人で行い、見落としの無いように点検に努めた。
	子どもの体調を常に確認し、怪我や事故には特に気をつけ、年齢に応じた適切な環境構成や言葉がけをおこなっている	8.7 (8.6)	
	施設内外・設備の安全点検を定期的に行い、清掃・整理整頓など環境整備に努めている	8.4 (8.8)	

評価項目	評価内容	評価点	幼稚園としての取り組み・改善策
保護者との連携	園児や保育のことをわかりやすく話し、保護者との信頼関係を築くように努めている 保護者の気持ちに寄り添い、願いや意見に共感したり取り入れている	8.1 (8.3)	怪我や気になる様子を保護者に連絡するだけでなく、成長や些細なエピソードも伝えるよう意識できたが、さらに努力を重ねていく。 昨年度は参加者が少なかった年長児保護者の『保育士体験』は参加家庭が増え、父親の参加もあり、普段の様子を見てもらうことができた。保護者の行事への参加回数は適当であると思われる。
	保育中の怪我や体調、人間関係など、些細なことも保護者に連絡している	8.4 (8.5)	
	保護者保育体験、バス添乗、行事お手伝いなどの人材活用の内容・回数は適切である	8.5 (8.5)	
情報の提供	保育参観・個人面談・おたより・おうちえん等を通して、幼稚園の様子や健康・安全に必要な生活習慣などについて積極的に発信している	8.3 (8.0)	在園児保護者に対しては『おうちえん』で日々の子どもの様子を伝えることができた。今後は部や課外の活動なども発信していく。その他の内容も連絡アプリを活用して遅滞なく配信できた。InstagramやLINEへの投稿は頻度が少なく、事務連絡が主になってしまった。広く一般にも楽しい様子を伝えられるように工夫していく。 園児向けの掲示物の工夫・向上を検討していく。
	ホームページ・フェイスブック・インスタグラムなどを通して、幼稚園の情報を一般に広く発信・公開できている	7.0 (7.9)	
	掲示板、掲示場所などを適切かつ効果的に活用できている	7.3 (8.1)	
守秘義務の遵守	職務上に知り得たプライバシーに関する情報等の秘密を守っている 園の重要書類や個人情報を記載した書類を園外に持ち出していない	9.6 (9.7)	クレームや相談があった場合は、上司に相談し解決につなげることができている。報連相を意識し、最後まで報告するように心がける。 クレーム以外の相談も複数人で共有し、一人で抱え込んだり自己解決せずに取り組むことができた。 クレーム対応の園内研修も検討する。
報告・連絡・相談	幼児・保護者のこと、クラスの出来事などで必要なことは園長や主任に報告・連絡・相談できている	8.8 (8.4)	
	クレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長に報告・連絡・相談をしている	8.6 (8.6)	
特別支援教育	特別支援教育の理解を深め、該当児に個別の配慮をしながら、発達の支援を行っている	7.9 (7.5)	今年度から公認心理師を採用し、特別な配慮や支援が必要な園児の様子を教職員や保護者と共有することができた。園の支援だけでは難しい子どもも増えているため、関係機関との連携を密にしていきたい。 園庭開放の回数を増やし、次年度の入園募集に効果があった。次年度は入園前保育【プチいるか】の実施を試みる。
子育て支援	園庭開放事業や子育て支援事業に積極的にかかわることができた	7.5 (8.3)	
入園募集活動	入園説明会、その他の活動を通じて積極的に入園募集活動を行うことができた	7.0 (8.0)	
地域とのかかわり	地域の人、地域の小学校や保育園幼稚園との交流を積極的に図るよう努めた	6.4 (6.7)	「幼保小の架け橋プログラム」により、北上小学校との交流機会が増えた。今後は教職員同士の研修や意見交換の機会を設け、スムーズな進学につなげられるようにしたい。園外学習の受け入れ先が少ないが、今後も子どもたちの視野が広がる活動を企画していく。引き続き10の姿を意識して保育活動に取り組む。
	地域の公園・自然や道路の安全状況などについて理解するよう努めた	7.0 (7.6)	
小学校との連携	幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿を意識した保育をすることができた 年長は小学校と連携を図ることができた	6.8 (7.3)	
資質の向上	園内研修や外部の研修会には自己課題をもって進んで参加している	8.1 (8.0)	意欲的に研修に参加する保育者が多く、学んだことを自身の保育だけでなく、園全体の保育に生かすことができている。 園内研修も意見交換の時間を設けたり、実技を取り入れるなど研修内容が工夫され、学びを深めることができた。
	研修や研究を通し、自己研鑽に努め、保育内容の向上に努めている	8.3 (8.1)	
人権擁護	子どもの人権擁護を理解し、子どもを尊重する保育に努めている	8.2 (8.2)	「子どもだから」と思うことがないように一人ひとりを尊重した関わり方を心がけている。保育者が間違った言動をした際は子どもに対してもきちんと謝罪している。人権擁護のためのセルフチェックを行い、自分の保育を振り返ることができた。他クラスの保育を見学し合い、保育の改善点などを気軽に話し合える機会を増やしていく。
	間違った言動をしてしまった時は、誤りを認め適切な行動をとっている	8.5 (8.3)	
	同僚の行動が変だな、おかしいなど感じた時は見て見ぬふりをせず、教職員同士で声を掛け合ったり注意し合ったりすることができている	6.9 (7.3)	

評価項目	評価内容	評価点	幼稚園としての取り組み・改善策
本年度の重点目標	仲間や自分を大切に思い、互いを認め合い育ち合える教育	8.3	元気な挨拶と返事に取り組んでいるが、達成が難しい子も見られる。登園渋りの子どもは減っているので、引き続き「みんなが笑顔な幼稚園」を目指して努力工夫していく。 なかよしtimeが浸透し、大きい子に憧れる、小さい子を愛しむ心が育っていると感じる。引き続き環境を整えサポートしていく。 【ねらい】を明確にすることで、子どもたちが主体的に生活し、自ら課題に取り組んでいると感じる。 日々の記録や情報交換は大切だが、負担になりすぎているか確認し、効率化を図っていく。
	元気にあいさつを交わし、みんなが笑顔な幼稚園	8.4	
	互いの個性を尊重し、自分らしさを発揮して主体的に活動する	7.6	
	ねらい・内容・発達を捉えた保育を実施し、気付きや育ちを記録し情報発信する	7.7	
	異年齢児とのかかわりの中で憧れの気持ちや思いやりの心を育てていく	8.0	
幼稚園としての総合評価および今後の課題	一昨年度の学校関係者評価委員会で保護者に保育のねらいが伝わっていないと反省し、昨年度から保護者にねらいを伝えている。今年度は園児にもねらいを明示したところ、自発的に活動に取り組む姿が見られるようになった。園と家庭がねらいを共有することにより、より良い教育活動を行うことができたと思われる。今後は『やってみよう、かんがえてみよう』を保育のテーマに据え、意欲的に活動できる子を育てられるように取り組んでいく。		
	学年主任や主幹教諭をフリー担任として配置することにより、保育中でも相談やアドバイスを受けられる体制が整い、不適切保育を防止することもできている。園児も保育者も困ったことや悩みを誰に対しても言える環境を整えていく。保護者に対しても【おうちえん】などで日々の保育を発信し、『見える幼稚園』を引き続き目指していく。		
	今年度から公認心理師を週2日配置し、特別な配慮や支援が必要な子どもの指導に対して助言が受けられる体制を整えた。保護者からの相談も増えたため、次年度は週3日配置できるようにし、園と家庭で共通理解した支援ができるように努めていく。 長時間の保育を利用する園児が増えているので、放課後も安心安全な環境を整え、子どもの精神的不安が解消できるように努めていく。		
	学園のクレドや各種マニュアルの読み合わせを行うことで理念や危機管理、安全対策の共通理解ができている。非常勤職員の研修参加ができていないため、共通理解のあり方を検討していく。 「誰かがやるだろう」の「誰か」になれるよう、各自が意識して積極的に動けるように努めていく。		
学校関係者評価委員からの意見	園児数が多く施設の規模が大きいのが、職員や補助の人数も多く充実している。保育教諭だけでなく事務員も全ての園児の名前、保護者を把握しており、安心して預けられる。園庭も柵などで遊びの内容を分けてあり、戸外あそびの安全が配慮されている。子どもに関する事故や事件が発生した際もスピード感のある対応、保護者に対する注意喚起、子どもたちへの指導をしており、安心できる。		
	『おうちえん』に活動のねらいや内容も書かれているので、園での様子がよく伝わる。細かいところまで工夫して保育していると感じる。しかし『おうちえん』の配信回数がクラスによりバラつきがあるので、最低の配信回数を決めたほうが良いと思われる。 『おうちえん』だけでなく、『しらゆりだより』、『ようちえんだより』、保護者保育士体験、保護者バス添乗の実施により【見える幼稚園】が実現されており、園生活が保護者にもわかりやすく伝わっている。		
	行事が多いが、練習と遊びのメリハリができているので子どもたちが楽しく登園できている。先生と一緒に楽しんでいる。行き渋りの子も少ないと感じる。 文字や数、月の製作などの取り組みは評価できるが、園行事の練習が多い時期は自由あそびの時間が少なくなるのでやらなくても良いと思われる。		
	『こころの時間』や『ちきゅうフレンズ』、『なかよしtime』などの活動を通じて仲間を大切に思う気持ちが育まれていると感じる。反面、自分を見つめ、自分自身を大切にするような取り組みはあまり見えないように感じる。行事や活動の失敗を恐れず、心から行事や活動を楽しみ、子どもらしくやる気を持って取り組む保育を目指して欲しい。 公認保育師が配置され、子どものことについて相談しやすい体制が整い安心できる。		